

第43回 Pitch to the Minister懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

- 日時：令和元年5月16日（木）10：30～11：30
- 場所：中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室
- Pitchテーマ：距離・身体・文化・時間、あらゆる制限を超えて人々を繋ぐ次世代モビリティが切り拓く未来
- 招へい者：深堀 昂 ANAホールディングス アバター準備室 ディレクター
- 出席者：平井国務大臣、左藤副大臣、幸田内閣府審議官、高田事務局長（宇宙）、行松審議官（宇宙）、星野参事官（宇宙）、高倉参事官（宇宙）、森参事官（宇宙）、山田参事官（IT）、鈴木参事官（科技）、石井企画官（科技）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 深堀氏からの説明

- エアラインのユーザ数は世界人口の約6%であり、多くの人にとってエアラインという移動手段はまだ遠い存在。ANAが求めている世界中の人々を繋げ社会に貢献するために何ができるかというところから考え、解決策として出てきたのが「瞬間移動」であり、瞬間移動を「アバター」を用いて実現する、ということに至った。
- ANAアバタープログラムは、①サービス化②国際賞金レース③宇宙開発、の3つのアプローチから構成されている。特に②では、主催者であるANAのところへ世界中からアバター開発に関する最新の情報が集約されることがポイント。
- リアルなコミュニケーションには、存在感の伝送が必要。遠隔地のアバターにアバターイン（ログイン）してやり取りを行うことで、デジタルとリアルを融合させることができる。リアルの世界を感じられることは、高い付加価値をもつ。
- 通信環境が脆弱なところでも遠隔操作を可能とするシステムを構築することで、外科手術、レスキュー・災害救助等、幅広い分野で活用することができる。日本が持っている人材のスキルをアバターを介してコンテンツとして世界に提供したい。
- アバターXプログラムは、アバターを用いた新たな宇宙開発・利用の創出を目指す。宇宙ステーション内の実験や船外活動、探査へのアバターの活用が今後期待される。

3. 主な質疑応答・議論

- イノベーションとは技術ではなく「フレーミング」であり、アバターはまさにフレーミング。日本発のプラットフォームとしてイノベーションを起こせる可能性があるのではないか、との意見があった。

- インターネット回線でつなぐことがポイントだが、クラウドでは限界がある。エッジコンピューティングを駆使していくが必要になってくる、との意見があった。

- 政府側との連携も積極的に検討していくべきではないか、との意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)